

外来化学療法部

■ スタッフ

部長	水野聡朗
副部長	小林哲 問山裕二
看護師	小林やよい
薬剤師（主任）	世古口典子 山田真帆 小田都紀子

■ 診療科の特色・診療対象疾患

1. 外来化学療法部とは

近年、がんに対する薬物療法は、目覚ましい進歩を遂げ、外科手術、放射線治療、内視鏡的治療、IVR 的治療とともに重要な位置を占めています。様々な腫瘍で薬物療法が実施されていますが、その多くが、生活の質（Quality of Life : QOL）の観点から外来治療として実施されています。

このような背景から、2015年5月にオープンしました新外来棟では、外来化学療法部は治療ユニットを34に増床し、増加する外来治療に適切に対応できるよう体制整備を行いました。

2. 主な診療対象疾患

がん薬物療法を専門とするスタッフ（医師、看護師、薬剤師）のもと、関係する診療科と緊密に連携して治療を行っています。

標準的治療のほか、新規治療開発のための臨床試験、治験なども受け入れております。

主な対象疾患は、治療・領域別に分けますと下記のように分類されます。

- 固形腫瘍（肺癌、乳癌、消化管腫瘍、肝癌、胆道癌、膵癌、婦人科癌、泌尿器癌など）に対する化学療法、分子標的治療、免疫療法
- 悪性リンパ腫、多発性骨髄腫など造血器腫瘍に対する薬物療法
- 小児がんに対する薬物療法
- 炎症性腸疾患・リウマチに対する薬物療法

■ 診療体制と実績

開設初年度の目標として、①治療実施数を増やす

こと、②医療事故予防のため、システム上の問題点の検証・改良を行うこと、主にこの2点にスタッフとともに重点的に取り組みました。

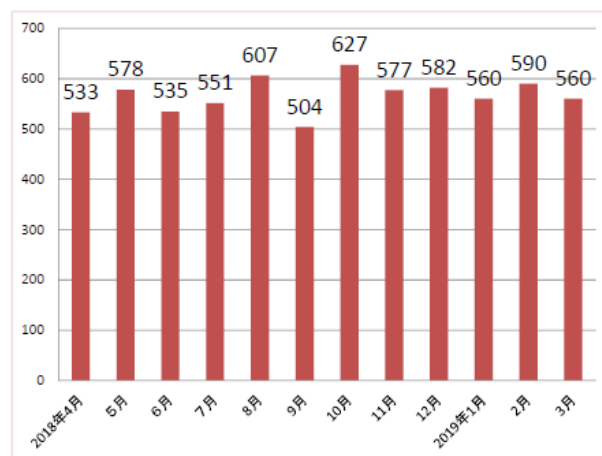
診療体制が整備された2016年以降は、地域がん拠点病院の一部門として、より高度で専門的な役割を果たせるよう、新たな取り組みを開始しました。臨床試験・治験の外来治療の体制整備もその一つになります。治験などの治療においては、通常治療と異なり、治療中の厳密なバイタルのモニターや薬物動態の採血を要する場合があります。このような要望に対応するため、治験専用ベット・指示簿等の整備、治験管理センターのスタッフとの連携を強化しています。

2018年4月から2019年3月までの診療実績を以下に提示します。

● 月別の治療実施件数

新しい病棟でのシステムも軌道にのり外来化学療法加算の月別件数も平均567と昨年度より増加しております。

(1) 外来化学療法加算月別件数(2018年4月～2019年3月)



● 曜日別実施数

曜日別（下記棒グラフ）でみると、祝日などの多い月曜の実施数が若干少ない状況です。今後実施数がさらに増加をした場合には、診療科に曜日の調整を依頼するなどして対応する予定です。

(3) 曜日別月別件数(2018年4月~2019年3月)

	月	火	水	木	金	合計
2018年4月	89	92	126	127	99	533
5月	91	133	159	110	85	578
6月	91	85	130	122	107	535
7月	95	131	125	113	87	551
8月	79	80	167	160	121	607
9月	39	83	150	130	102	504
10月	73	132	166	159	97	627
11月	69	87	144	183	94	577
12月	48	110	162	156	106	582
2019年1月	52	107	157	132	112	560
2月	46	120	158	157	109	590
3月	52	108	147	109	144	560

・学会活動

今後、重点的に取り組む課題として、外来化学療法部としての学会活動を考えております。具体的には、今年度から新たに開始した経口抗がん剤による治療を受ける患者さんをサポートする取り組みについて、来年度の国内での学会発表をすべく準備をしております。

<http://www.hosp.mie-u.ac.jp/> (ホームページ)

● 診療科別の実施件数

診療科別の実施数は大きくは変わっておりません。腫瘍内科、肝胆膵外科、呼吸器内科、消化管外科、消化器内科などの実施が多い状況です。

今後、実施数などを見ながら、新たな診療科からの受け入れにつきましても検討しております。

(4) 診療科別月別件数(2018年4月~2019年3月)

診療科名	腫瘍	消化	呼吸	泌尿	皮膚	小児	産科	眼科	耳鼻	心臓	神経	精神	泌尿	皮膚	消化	呼吸	泌尿	産科	眼科	耳鼻	心臓	神経	精神	合計
2018年4月	1	20	28	35	8	6	0	3	35	41	3	41	148	76	82	7	0	2	0	0	0	0	0	533
5月	1	17	28	50	9	2	0	5	45	52	5	38	157	82	79	4	0	3	2	0	0	0	0	578
6月	1	17	23	53	10	4	0	2	40	48	4	38	118	80	84	4	0	2	3	0	0	0	0	535
7月	0	15	21	41	10	10	1	4	38	49	2	36	144	79	94	4	0	1	2	0	0	0	0	551
8月	0	20	32	54	6	15	0	8	50	52	0	37	137	91	102	4	0	1	0	0	0	0	0	607
9月	0	11	21	46	5	5	0	2	34	48	3	22	124	94	84	4	0	1	0	0	0	0	0	504
10月	0	12	24	57	5	12	0	0	51	91	0	19	163	105	106	3	0	3	0	0	0	0	0	627
11月	1	14	18	51	6	13	0	8	39	55	2	37	127	97	104	4	0	3	0	0	0	0	0	577
12月	2	14	27	52	4	11	0	5	54	57	0	30	150	94	84	5	0	3	0	0	0	0	0	582
2019年1月	1	15	25	50	3	8	0	4	39	38	4	28	152	76	105	2	0	1	0	0	0	0	0	560
2月	1	16	21	50	5	12	0	5	48	57	3	36	152	74	102	6	0	2	0	0	0	0	0	590
3月	2	19	27	55	1	16	0	5	26	63	3	29	145	77	87	2	0	3	0	0	0	0	0	560

■ 臨床研究等の実績

・がん薬物療法セミナー

複雑化するがん治療において、副作用管理はこれまでになく重視されています。そこで、支持療法に関する最新の情報を共有し、入院・外来治療のいずれにおいても質の高いケアが提供できるよう外来化学療法部主催(後援:三重大学がんセンター)でがん薬物療法セミナーを昨年度から開始しました。過去のセミナーは下記の通りです。

- 第4回 2018年1月23日 テーマ「末梢神経障害」「暴露」
- 第5回 2018年5月30日 テーマ「免疫療法」
- 第6回 2018年9月19日 テーマ「就労支援」

いずれのセミナーにおいても、医師、看護師、薬剤師、栄養士等の多くの職種が多数(50名前後)参加して行われました。今後も副作用対策をテーマとして、3~4ヶ月毎に開催していく予定です。